

2011年1月24日

2010年度学生研究発表大会の総括

学生研究発表大会教員世話役

経済学部教授 望月和彦

学生研究発表大会は2005年から再開されました。このときは発表者は1グループしかなく、学内ディベート大会の「おまけ」のような位置づけでした。

その後、徐々に参加者が増え、昨年度は経済学部と経営学部の5つのゼミから19グループ・個人が参加し、今年度はこれに社会学部が加わって、5つのゼミから25グループ・個人が参加するに至りました。

これもひとえに関係教職員のみなさまのご協力のたまものと感謝しております。とくにゼミ単位で参加していただいているゼミの指導教員の先生方にはあつく御礼申し上げます。

学部学生が、研究を行い、それを発表することはなかなか容易なことではありません。ともすれば単なる調査・報告に終わってしまい、問題意識やオリジナリティが明確でない場合もあります。

しかし今回の研究発表大会で報告されたものには、単なるレポートではなく、オリジナリティのあるものが多くありました。これはゼミ担当教員の指導のたまものであると同時に学生諸君の日頃の精進の結果であると思います。報告のなかには相当の準備を行ってきたと思われるものもたくさんありました。

また報告の際には、すべての報告者がパワーポイントを使用して報告を行いました。その使い方には上手・下手はありますが、きちんとプレゼンテーションを行うのだという意欲がよく現れていると思います。

ゼミの中で行う報告とはちがいが、まさに公開の場で報告を行うことは大変な緊張を伴うことであり、学生諸君にとっては貴重な体験となったことと思います。

これらの学生の研究発表に対して，大学教員からのコメントをいただきました。ご協力いただきました教員のみなさまには厚く御礼申し上げます。学生諸君には，研究発表大会でいただいたコメントをよく拳々服膺して，より一層の精進を願ってやみません。